

科目コード			開講期	通年
専修	社会学			
講義別	特殊講義		毎週時間	2
担当者 (職名・氏名)	講師	落合恵美子、岩井八郎、 吉田純、押川文子、 若林直樹、新川敏光、 杉本淑彦、小山静子、 秋津元輝、稲垣恭子、 松田素二、伊藤公雄	単位	4
			曜時限	木2
			教室	文学部新6講
題目	GCOE提供科目「親密圏と公共圏の再編成」			
授業計画 と内容	<p>落合) 現代アジアにおける「ケアダイヤモンド」の比較を通して、親密圏と公共圏の再編成における福祉国家とグローバル化の役割を検討する。</p> <p>岩井) ライフコース研究から見た親密圏と公共圏</p> <p>吉田) ギデンズ、ベックらの再帰的近代化論を参照しながら、コミュニケーション空間における情報ネットワークの浸透にともなう親密圏と公共圏の再編成の様相について検討する。</p> <p>押川) 1) インド近現代の「家族の変容を、ナショナリズム、家族法などの法的枠組みの変化などに焦点をあてる。2) 「家族の今: 英文の現代小説を読みながら現代都市家族の情景を考える。</p> <p>若林) 企業を中心にネットワーク組織への組織変動の傾向について、ソーシャル・キャピタル論の観点から議論する。日本においても、他の先進国と同じく、大企業組織が縮小する傾向にあり、組織内部の結合関係だけではなく、企業間の分業関係、雇用関係もネットワーク化しつつある。</p> <p>新川) 日本における家族主義福祉国家(男性稼得者世帯モデル、擬似家族的企業福祉、公私混合福祉、家族福祉)の成立および変容について、比較政治経済学的観点から概観する。</p> <p>杉本) 戦後日本におけるポピュラー・ヴィジュアル・カルチャーにおいて、親密圏と公共圏がどのように表されてきたかを概観する。『源氏物語』(翻案)とウルトラマンをおもに取り上げる。</p> <p>小山) 家庭教育とは19世紀末から本格的に登場してきた歴史的な概念である。家庭教育とは何を意味しているのか、学校教育との関係性において考察する。</p> <p>秋津) 1) 日本における農村家族の地域的特質と過疎地集落における家族の現状について。2) 農業者と消費者間の農産物取引を、食を通じた親密性の観点から考察する。</p> <p>稲垣) 女学生文化・師弟関係・親密さ一戦前期の女学生文化や教師一生徒関係の特質について紹介しながら、「かくれたカリキュラム」としての親密さの意味を考える。</p> <p>松田) 戦争や侵略植民地支配によって生じた憎悪や敵意は、いかにして癒され社会的秩序を回復していくことが可能かということについて、カンボジアやルワンダのジェノサイドや日本の戦争処理などを事例にして考える。</p> <p>伊藤) 現代日本のジェンダー政策</p>			
テキスト・参考文献	授業において配布			
成績評価方法・備考				